

2021 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [東洋女子高等学校] 担当教諭名 [木内 美穂] (2年 103名)

相手国・地域 [パキスタン]

海外学校名 [Modernage Public School & Girls College, Abbottabad] 担当教諭名 [Mehreen Ansar]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	現代文	「山月記」の月の描写が何を表しているのか 言語化してみよう！	2
	日本史・世界史	世界の壁画について学ぼう！	1
	総合的な学習の時間 その他	アートマイルプロジェクト	26

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	ジェンダー平等の実現とパートナーシップの達成に向けて
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	教育で格差のない女性が輝ける世界へ、教育機関や企業が新たなリーダーを生み出そう！風潮にとらわれず、相手の立場や考え方を尊重するために、まずは私たちが自分の発言や行動に気を付け、他人の意見を尊重しよう！



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・学年全員を、8名×13のグループに分け、各グループの中で4名を交流・SDGs学習・壁画・広報のいずれかのリーダーに任命した。リーダーを中心に調べ学習や動画作成を各グループで協力して行い、協働学習の意識を深められた。 ・リーダーを中心に、活動に対する責任感を持ち、メンバーと協力するために自分がどのような発言・行動をするべきか主体的に考えることができた。 ・自分の考えを積極的に発言する様子が多く見られた。 ・ジェンダー平等について、自国や相手国の課題を認識し、自分たちに何ができるか、自分たちがどのように生きていきたいかを考えるきっかけを、多くつくることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー以外のメンバーの活動への意識や責任感に温度差が生まれてしまう場面もあった。 ・Zoomで相手国と会議する以外で、相手国の活動の様子をあまり生徒に伝えられなかった。 ・相手国とのビデオ会議をする際、生徒が発言したい内容を即座に英語で、生徒自身の言葉で、レスポンスできるようにレベルアップを目指したい。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習やZoomでの会議、みんパックの活用を通して、パキスタンの様々な文化や環境を知り、相手国の文化を尊重する心が芽生えた。 ・同世代の学生とZoom上で顔を合わせ、会話することで、相手国への親しみを持ち、交流を楽しむことができていた。 ・自国にはない文化や思想に触れることで、視野を広げ、相手国のことを理解したいという気持ちも芽生えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoomで相手国と交流をすることで、相手国の文化や環境などについて、私たちの認識と異なる部分や新たに知る事柄などが多々あり、より深く実態を理解することができた。 ・宗教の面など、異文化コミュニケーションで難しさを感じる部分もあったが、親しみを持って交流したり、活動の状況や想いを共有し合ったりすることで、改めて協働や相手国を尊重する心の大切さを認識することができた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	5月 8月	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介動画の作成。 (名前やパキスタンの生徒へ向けたメッセージ動画の作成) ・自国の文化紹介動画の作成 (大学の先生に効果的なプレゼン方法を教えていただき、英語で自国のプレゼンをし、ビデオ撮影したものを相手国へ送った) 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手にわかりやすく伝えるために、友好的な関係を築くために、どのような自己紹介にしたら良いか主体的に考え、名前や趣味を書いて装飾したカードを掲げたり、動画にポップな字幕を付けたりと、創意工夫を凝らして動画を作成していた。 	総合 放課後 夏期講習
共有 テーマ学習	6月 9月 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・相手国について調べ学習と発表。 ・ジェンダー平等やパートナーシップについて、自国や相手国の実態や課題について調べ、考察した。 ・Zoomで相手国とビデオ会議を実施し、ジェンダー平等やパートナーシップの課題について意見交換をしあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに相手国の文化、経済、教育、性、政治、宗教のいずれかについて調べ、苦労しながらもメンバーで協力しながらプレゼン形式にまとめることができていた。 ・相手国とZoomで、調べた問題点や解決策を英語で話し合うにあたり、英訳やスピーキングを懸命に行っていた。 	総合 放課後
融合 メッセージ作成	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・壁画のメッセージ決め (グループに分かれ、KJ法で、「ジェンダー平等を達成するためには？」というテーマでメッセージに込めたいキーワードを見つけ、メッセージを作成した。メッセージを集約して、決定したものを、相手国に伝えた。) ・壁画デザインの決定 (相手国とZoomでの会議を通して、壁画に描く共通のモチーフを決定) (モチーフやこれまでの学習を踏まえ壁画リーダーがデザインを考えた) 	<ul style="list-style-type: none"> ・メッセージに込めるキーワードで、「社会」と「世界」など、それぞれの言葉が持つ意味や伝わるイメージを元に、最良な言葉は何か、多角的に考えていた。自身の考えを積極的に発言し合い、対話的な学びが実現できていた。 ・今までの学習成果やメッセージに込めた思いを形にするにあたって、明るい未来や希望を込めたモチーフを考える生徒が多かった。Zoomの会議では、どのモチーフを壁画に込めたいかお互い主張することができ、相手国との共同制作への意識が高まった。 	総合 放課後
創造 壁画制作	11月 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・現代文や日本史・世界史で壁画を描くための知識付けや言語化の表現力を高める授業を実施。 ・壁画アーティストの方によるワークショップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外で壁画を描き、活躍されているミヤザキケンスケさんに経験談をお話していただき、壁画を描く意義について思いを深めることができた。また、ワークショップで自由に絵を描き、皆で1つの作品をつくるという体験をし、絵を描くことが苦手な生徒も思いを形にする楽しさや皆で協力して作品を完成させる達成感を味わうことができていた。 	総合 放課後

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
創造 壁画制作	11月 12月	・壁画の完成	・壁画リーダーが中心となって、学年全員で色塗りを行った。限られた時間で完成させ、円滑に活動を進めるために、自分が今何をすべきか視野を広げ、主体的に考え、行動できている生徒も多かった。相手国に喜んでもらいたい、素敵な壁画を作りたいという思いが溢れ、彩色やデザインにもこだわって作成していた。	総合 放課後
評価 振り返り 自己評価	1月 ～ 3月	・小論文の作成 (ジェンダー平等についての小論文を作成した) ・ルーブリックでの自己評価 ・校内での壁画発表	・1年間の学習の集大成として「ジェンダー・ギャップをなくすために何が必要か。また、それを解決するためにどのような行動をしていけばいいか」というテーマで、小論文を書き上げた。日本が抱えるジェンダー・ギャップを自分ゴトとして捉え、自分が生きていく未来のためにどのようなことを意識して学び続けるべきか、課題解決に向けて考え、方法を見つけることができた。 ・アートマイルでつきたい力5項目をA～Cの3段階で評価し、この活動を通して自分がどのような成長を遂げたか、自分にはどのような力があるかを可視化することができた。 ・校内で完成した壁画を発表し、相手国が素敵な壁画を描いてくれたこと、共同制作で壁画を完成させられたことに喜びを感じていた。	総合 放課後

■アートマイルでつきたい力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	5	自国文化のプレゼンやZoom会議にて日本のポップカルチャーがパキスタンでも人気であることを知るといった体験を通して、自国の文化の良さや世界とのつながりを再認識することができていた。加えて、相手国についての調べ学習や交流を通して、相手国の文化で疑問に思ったことなどを発信し、理解を深めることができた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	自分たちの考えたジェンダー平等の課題に対する解決策が、実行したら実際どのような影響をもたらすのか、本当に効果的なのかという視点で一度立ち止まって再考することができた。
主体的に考え行動する力	4	協力して活動するために自分の役割をしっかり把握して活動できていた。また、リーダーを中心に、活動をより良いものにするため自分がどのような発言・行動をするべきか主体的に考えて動くことができていた。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	5	Zoomでの会議を通して、共通の話題で異国の同年代の学生との会話を楽しむ力を育むことができた。Zoom会議で顔を合わせたり、デザインや想いを共有して壁画を完成させたりと、遠く離れた地でも繋がっていることを実感しながら、1つのプロジェクトを協働して成し遂げる達成感や喜びを感じることもできた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	メッセージ作成の際、明るい未来に向けて自分たちが伝えたい想いを表現する言葉は何か皆が懸命に考え、選んだ言葉をなぜ込めたいか自分の意見をしっかりと持つことができていた。壁画作成の際は、学習内容やメッセージを表現したモチーフやデザインを考え、想いを発信することができていた。